



商学部 就職データ(2014年3月卒業 学部生)

厳しい就職環境が続く中、全国の総合私立大学でトップを誇る就職率をキープしています。

就職決定状況

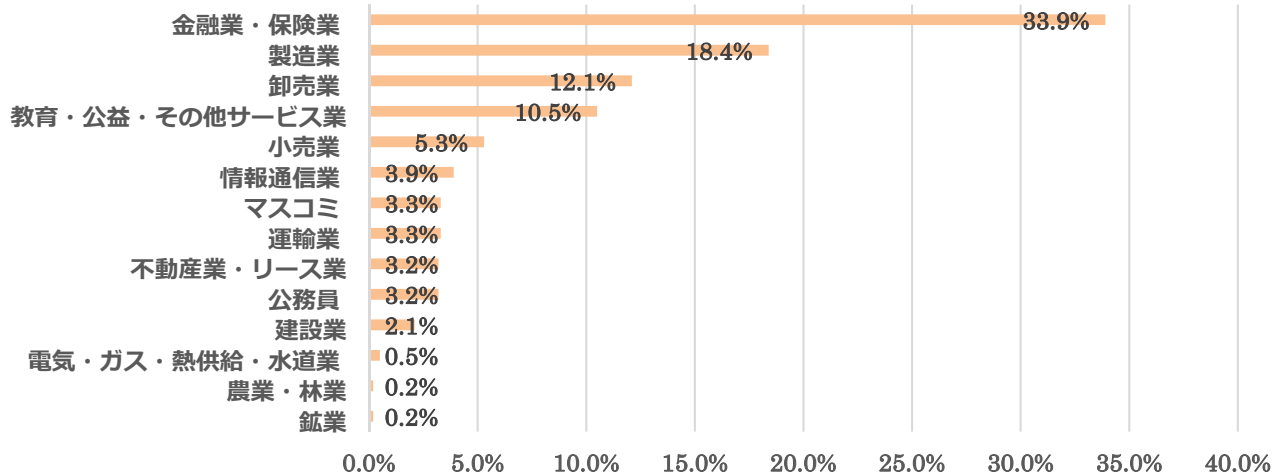
就職・進路決定率	男子	女子	計
就職率(%)	97.8	99.5	98.4
就職決定率(%)	87.3	95.7	90.3

就職率=就職決定者数/就職希望者数

就職・進路決定率

=就職決定者数(自営含)/(卒業者数-進学決定者)

業種内訳



就職先上位企業

	就職先企業名	男子	女子	合計
1	(株)三井住友銀行	8	10	18
2	(株)東京三菱 UFJ 銀行	4	8	12
3	日本生命保険(相)	2	9	11
4	りそなグループ	5	5	10
5	(株)みずほフィナンシャルグループ	6	3	9
6	(株)紀陽銀行	3	5	8
7	(株)池田泉州銀行	3	3	6
7	みずほ証券(株)	4	2	6
9	(株)近畿大阪銀行	4	1	5
9	三井住友海上火災保険(株)	1	4	5
9	三菱 UFJ 信託銀行(株)	3	2	5

私が薦めるこの一冊 『市場を創るーバザールからネット取引まで』

小嶋 健太 助教

ジョン・マクミラン(著)、瀧澤弘和・木村友二(翻訳)、
NTT 出版、2007年、ISBN: 9784757121270

「経済学基礎」を履修した人なら、市場は効率的な資源配分を実現するが万能ではないことを学んだはず。しかし、「市場ってつかみどころがなく抽象的だなあ」と思っている人も少なくないでしょう。そのよう

な思い込みを良い意味で裏切ってくれるのが本書です。「とにかく市場に任せておけば大丈夫」とか「市場経済は格差を生むからケンカラン」といった乱暴な議論とは一線を画し、市場を支える制度設計の重要性が古今東西の多数の市場を例に説明されています。しかも数式やグラフは一切登場しません。



商科開設 100 周年記念誌

『関西学院高等学部商科開設 100 周年記念誌』が 2 年間に渡る編集作業を経て本年 8 月に刊行され、商学部生全員に配布される予定です。以下は編集委員長の福井幸男先生からの紹介の言葉です。

関西学院高等学部商科が創立 100 周年を迎えた 2012 年に、記念事業の一環として学部 100 年史の刊行が計画されました。学部からの委員と外部の協力者そして学部事務室のスタッフによる共同作業が開始されました。是非とも商学部としての教育理念を明確にした記念誌を世に問いたいという気持ちで取り組みました。関西学院の歴史の多くは、キリスト教主義教育の観点から語られることが少なくありません。商科創設時の事実上のリーダーとも言える木村禎橋氏(現在の公認会計士および税理士の制度設計は、彼の戦前の計理士純化運動の成果)を掘り起こしたことは、今回の記念史にひとつの意義を与えるものだと自負しています。商科 100 年の歴史に一本の筋が通りました。この関連で、わが国の会計士制度歴史の研究者である平野由美子氏の講演会を 2013 年秋に開催しました。また、わが国初の国勢調査などの資料を駆使して、商科創設時の神戸の活況あふれる歴史を明らかにできました。

本誌の基本方針のひとつは、高等商業学校の歴史と伝統を強調したことです。つぎの三点があったかと思えます。(1) 建学の精神を考察し、キリスト教主義学校としての商科の伝統と歴史像を組み立てること、(2)商科 100 年の教育と研究が

これまでに果たしてきた役割を再確認し、将来の商学部の一層の発展の基礎となる手がかりを探り、問題提起をすること、そして(3)戦後の商学部の特色ある専門教育の屋台骨を支えた二人の先覚者、池内信行教授と青木倫太郎教授の研究と教育を通じて、商学部の学問的風土を明らかにすること。

現役の学生にも是非とも一読を薦めたいという委員会の要望から、平易な日本語で書くことを心がけ、ふんだんに卒業アルバムなどから当時の写真も入れてビジュアル化に努めました。過去を語らずして、現在も将来も語れません。商学部の今後の発展がますます期待されています。本書がひとつの一里塚となりますならば望外の喜びであります。

商科 100 周年記念誌編集委員会 委員長 福井幸男



講演会開催案内

日時：2014 年 6 月 30 日 (月) 13:30～
会場：図書館ホール
講師：齋木 尚子 (さいき なおこ) 氏
「外務省国際文化交流審議官」
テーマ：「国際交流の在り方」(仮題)

日時：2014 年 7 月 1 日 (火) 13:30～
会場：B 号館 203 号室
講師：中井 加明三 (なかい かめぞう) 氏
「野村不動産株式会社 取締役社長 社長執行役員」
テーマ：関西学院商科 100 周年記念講演会
起業と経営の実務(1)
「上場企業の経営:金融ビジネスと不動産ビジネス」
- 日本経済復興のための都市再生を中心として -

教員紹介



永田 修一 助教

この春より商学部の一員になりました、永田と申します。専門は統計学・計量経済学でして、最近の一般社会での統計科学への関心の高まりは、関係者として率直にうれしく感じると同時に、その関心に応える講義を提供する責任を強く感じています。現在担当している「統計分析論」は、データ分析の理論を扱うだけでなく、コンピュータで実習する時間を多く設け、受講者が実際に統計分析をできるようになることを目指しています。その関係で、履修の申込期限が通常より早く、人数の制限もあります。社会に出る前に手持ちの「スキル」を1つでも増やしたいという意欲的な方は、ぜひ申込をしてみてください。皆様と教室でお会いできる事を楽しみにしています。



川崎 雄二郎 助教

今年 4 月に経済学の教員として商学部に着任しました。経済学と聞くと、みなさんは「お金に関する学問」というイメージをもたれているかもしれませんが、私自身は結婚や学校選択問題、研修医の病院への配属などといった「社会的な関係の形成」を研究の題材としていますので、比較のお金とは縁遠い研究をしています。研究において、私は日頃より種々の社会的関係にはそれぞれどんなメリット・デメリットがあるのか、そして各個人あるいは社会全体にとっての最善の関係性を実現するためにはどうすればよいかを考えています。着任したばかりでまだ慣れないこともありますが、これからみなさんとお互いにとっての「最善な関係性」を築くべく、邁進していきたいと思っております。

